

足の骨だけが水に流されただけで、ほぼ一体分がすっかり残されていた。ナダレ

の跡もないし、どういう理由で死んだのだろうか。

このあとはすっかり平凡。まもなく水も濁れ、ブッシュがかぶさってくる。右手の尾根をこえて右俣を下降する予定であったが、左岸斜面は猛烈なヤブである。二俣まで下降した方が楽だと判断。引き返すことにする。 (記)

[タイム] 出合(7:35)→二俣(7:50)→遊行終了(9:05)



湯の花沢右俣

1990年8月26日

L

湯の花沢左俣の遊行終了後二俣まで戻り、10:10右俣の遊行開始。すぐ小滝が出てくる。5m滝は左岸を直登。下部は細かいがホールドが豊富。上部はフリクションをきかせて突破する。水流のすぐ右側が登りやすい。

すい。

幸先は上々であったこの右俣は、このあとすぐに平凡となる。たんたんと遊るが、どうにも平凡。ブッシュがかぶさってきたところで遊行終了とする。

(記)

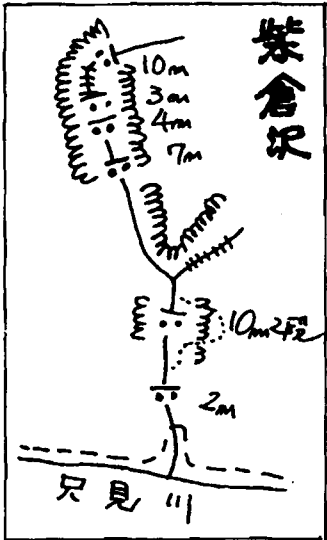
[タイム] 出合(10:10)→遊行終了(10:45)

柴倉沢(下流部)

1990年8月26日

L

湯倉温泉から只見川ぞいの踏跡をたどり、8:00柴倉沢出合。歩き始めるとすぐに2m滝、3m滝。そして7mと4mの2段滝となる。ここは右の側壁に取り付き、滝の落口にトラバースする。右からナメ状の支沢を合わせる。合流点のあた



りは迫力のある岩壁で、雰囲気が変わってきた。更に進むとゴルジュ状となり、7m滝。これを右から登ると3m、4mと滝が続き、最後は10mの直瀑となっている。ここは登れない。ルートをさがしたがはっきりせず、10:00引き返すことにする。(1) (5)

[タイム] 柴倉沢出合(8:00)→進行中止(10:00)→柴倉沢出合(11:00)

滝沢川源流左俣左沢

1990年8月25日

L.

猪ヶ森山から滝沢川源流右俣左沢を二俣まで下降し、11:25いよいよ左俣左沢の遡行開始。すぐ7mのナメ滝をかける。左岸から釜をへつり、右岸に渡って直登する。幸先がよいと喜んでいたら、あとは平凡となってしまった。右沢出合を過ぎてもおも平凡である。これはハズレの沢だろうかと不安になってきたところで、ポツポツと小滝が出てきた。4mを筆頭に1~2mのものだが、スタンス多くすべて直登して先に進む。

やがて10mの滝となった。行く手を阻むようにしてそびえる岩壁から流れ落ちる水。水量が多ければ、豪快な感じを受ける滝である。樹林だけを頼りにして、強引に右岸を捲く。この滝のすぐ上部にも5mの滝がかかるが、ここはスタンス多く、何なく直登した。

やがて連瀑帯となる。最初は1~3mであるが、ま

